

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	ふれあい館運営事業			
予算科目	10 款 5 項 5 目			
総合計画での位置付け	教育・文化・スポレクの振興～うるおいと生きがいのひとづくり～ 生涯学習の推進			
所管課情報	担当課:	社会教育課	電話番号(内線):	730
記入者情報	所属長:	森田 誠司	担当責任者:	安田 敦
事業の性格	内部管理事務			
実施期間	【開始年度】 平成 年度 【開始年度】 設定なし			
事業の対象				
根拠法令等				
事業の目的	旧小中学校施設を、地域文化の伝承及びコミュニティーの助長並びに高齢者の生きがいづくりの場として有効活用を図る。			
事業の内容	○施設使用申請受付及び許可書交付業務 ○清掃業務 ○各種経費支出業務			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	引き続き、安全に利用できるよう施設の維持管理・安全管理に努める。			
改善策の 具体的 取り組み				

事業費及び財源内訳					
項 目		26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算
事業費	直接事業費	2,765	2,015	430	1,798
	人件費	3,977	4,343	2,171	4,343
	合計	0	6,358	2,601	6,141
人件費 内訳	人工数	0.50	0.54	0.27	0.54
	人件費単価	7,954	8,042	8,042	8,042
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	3,977	4,342	2,171	4,342
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	1	1	0	0
	一般財源	6,741	6,357	2,601	6,141

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績
野中ふれあい館利用回数	回	4	5	0	6
下灘ふれあい館(体育館を含む)利用回数	回	85	40	0	35

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の実績
	1,761	1,760	1,760	1,760	1,760	8,801

成果指標				
成果指標	施設利用回数			
指標設定の考え方	利用回数により施設の必要性を把握し、施設の維持管理・安全管理に努める。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	45	45	45	0
実績	89	41	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	野中ふれあい館は、民具等文化財の整理保管施設として活用しているが、下灘ふれあい館については、体育館はスポーツ等で利用があるものの、旧校舎については利用がないのが現状である。両施設とも、今のところは安全に利用できるよう管理を引き続き行っていく必要があるが、下灘ふれあい館(旧校舎)については、今後、施設の廃止も視野に入れて運営方針を検討する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	下灘ふれあい館については施設を廃止し、解体の方向で手続きを進めることとし、野中ふれあい館については、民俗資料等を保管する施設も他に無いことから、現在の利用を継続しなければならないと思うが、耐震の問題もあることから、他の施設との関連も含めた市全体の施設の存続の検討に加える必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題